

2016年10月17日

報道関係各位

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル
代表取締役社長 菊地 哲

トイレの空き状況を確認できる「IoTトイレ」を開発 オフィス向けIoTサービスとして今秋からサービス化を計画

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(代表取締役社長:菊地 哲、本社:東京都千代田区、略称:CTC)は、トイレにセンサーを設置してリアルタイムに個室の空き状況を確認できるクラウドサービス「IoTトイレ」を開発しました。また、2016年4月から7月までの間、三井不動産株式会社(代表取締役社長:菰田 正信、本社:東京都中央区)と共同で、霞が関ビル内のトイレで実証実験も行いました。

CTCでは、9月1日から社内の霞が関と大崎オフィスでIoTトイレを実際に利用してサービス品質の向上を図り、秋から三井不動産のオフィスビルやその他東京都内のオフィスビル等の業務施設に向けて販売していきます。

IoTトイレは、昨年度に実施した業務改善や問題解決につながるツール作成の社内コンテストから生まれたものです。一定の時間帯に個室トイレの利用が集中することがあり、トイレの空き状況が効率的にわかるサービスとして開発されました。

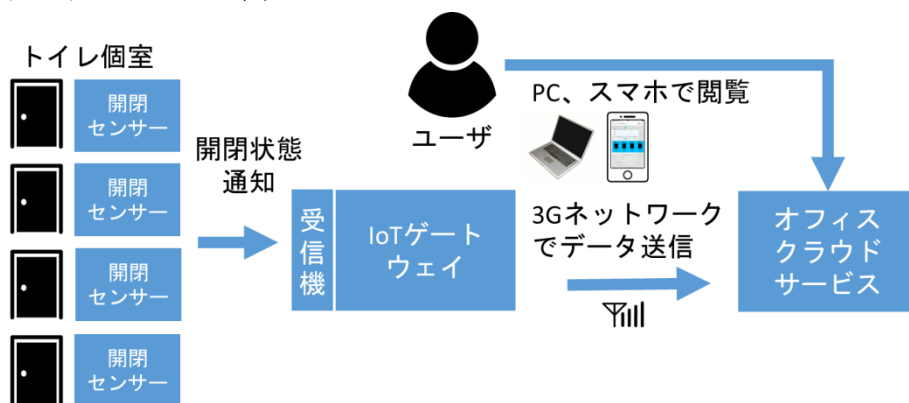
IoTトイレは、発電パネルと無線が内蔵されているセンサーを使用して個室トイレのドアの開閉状態を判断し、PC やスマートデバイスから空き状況を確認できるクラウドサービスです。電源の確保や配線工事、サーバの設置などが不要なため、小規模なオフィスでも簡単に導入することができ、ビルオーナーや管理会社のオフィスサービスの拡充に貢献します。

今回、IoT トイレの実証実験に三井不動産が参加しました。三井不動産は、「その先の、オフィスへ」をスローガンに既存のオフィスビルの概念を超えた新しい付加価値を提供しており、このようなオフィス向けIoT サービス開発は、同社のこの事業理念を体現する取り組みの一つでもあります。

三井不動産との実証実験を踏まえて、トイレに設置した機器について、長期間にわたる連続運用やセンサーの感度調整、データ送受信に関するプログラム改修などを行いました。ビルオーナーやビル管理会社の観点からの改善に向けた要望をベースに、今後のオフィスでの利用を経てサービス化に取り組みます。

CTCは、センサーの活用で従来は定量化されていなかったデータを可視化した IoT サービスのラインアップの拡充に努めており、今後も、会議室の空き状況管理や勤怠管理など、快適なオフィスを実現するオフィス向けIoT サービスを提供していきます。

<IoTトイレ サービスフロー図>



<センサーやスマートフォン画面>



トイレのドアにセンサーを設置



スマートデバイスで空き状況を確認

- ※ 記載されている商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。
- ※ 掲載されている情報は、発表日現在の情報です。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
広報部

TEL:03-6203-4100/E-mail:press@ctc-g.co.jp